

作品について

はじめを通して

「はじめをなくす」ことは無理なのでしょうか？
吉川さんの言うように、社会の中で自分と反りが合わない人や苦手な人がいることもありますよね。一人ひとりに個性があり、違いもあります。でも、だからといって、いじめていいわけはありません。いじめは決して許されない人権侵害です。自分と同じように相手も大事にしてください。

どうして

結婚・出産・仕事、どれも、私が選んだ、私の生き方です。「どうして結婚しないの?」「どうして産まないの?」「どうして働くの?」その「どうして」という言葉に、がんじがらめになって、苦しんでいる人がいます。何気ない声かけの裏に、固定観念がひそんでいること、あなたの当たり前が、みんなの当たり前ではないことに、気づいてください。すべての人が、互いに支え合い、利益も責任も分かち合える社会をめざしたいものです。

冬に咲く花 ヤツデ

「幸せかどうか」は、誰が決めるのでしょうか。
中学校のクラブ活動指導中の事故により、首から下の運動機能を失った星野さん。口にくわえた筆で描く花の絵や詩からは、力強いメッセージを感じます。「体が不自由な人はかわいそう」なのではなく、社会にそのような偏見があることや、自立や社会参加を妨げる障壁があることが問題なのではないでしょうか。「かながわ憲章※」がめざす共生社会は、誰もがその人らしく暮らすことのできる社会です。その実現のために、一人ひとりが、自分の問題として考え、行動していきたいです。

※平成28年に起きた県立「津久井やまゆり園」の事件を受けて策定した「ともに生きる社会かながわ憲章」

大好きな人

人は誰でも必ず年をとり、老いていきます。年を重ねた高齢者は、若い頃のように速く走ることはできないかもしれませんが、長い間に培った貴重な経験や知恵があります。私たちには、まだまだ教えていただきたいことがたくさんあります。長年、社会を支え続けてくださっている高齢者への感謝・尊敬の気持ちを大切にしながら、私たちに何ができるかを考えてみませんか。

拭く

戦前より行われていた隔離政策で、ハンセン病に對する間違った考えが広まりました。その後、隔離政策は廃止され、患者に対する賠償責任も認められたにもかかわらず、多くの人が故郷に帰ることができませんでした。長い年月は、家族との関係や故郷との距離を遠いものとさせてしまったのです。正しい知識や理解があれば、こんな悲しくつらい生活を送らなくてもすんだはずです。

手紙

「自分の育った村に帰りたい。」当たり前の願いなのに、「私」は、帰ることができません。この村の人たちのように生まれた場所によって、結婚や就職等の差別を受け、苦しんできた人たちがいるのです。最近では、情報化の進展により、インターネット上で、差別を助長させるような悪質な書き込みが問題となつていきます。同和問題を正しく理解するとともに一人ひとりが差別を許さない心を、しっかりと育むことが大切です。

差別のない世界へ

「おかあさんには絶対にこのことを言わないで。おかあさん、きつと悲しむから。」そう、おとうさんに必死で訴えた「君」。おかあさんを想う、優しさで強さを感じます。

平成二十八年にいわゆるヘイトスピーチ解消法が施行されました。「こころのやさしい君は、差別のない世界を築く力にきつとなれる」というおとうさんの言葉のように、一人ひとりが優しい心をもって、多様な文化や民族の違いを理解し、認め合う、多文化共生社会を築いていきましょう。

路上のうた ホームレス川柳

ホームレスを「だらしない」「働こうと努力しない」などといった偏見・先入観で見えていませんか。ホームレス問題は、社会の構造の問題であり、厳しい雇用環境や家庭・地域におけるつながりの希薄さが、路上生活へとつながる理由の一つのようです。なぜ、そうした生活をするようになったのか想像力を働かせ、相手の立場に立つて考えることが大切です。

かけがえのない息子を亡くして

交通事故の被害者も、犯罪被害者です。交通事故が、たくさんの夢と希望をもち、その実現に向けて努力を重ね、充実した毎日を送っていた大学生の人生と大切な命を一瞬にして奪ってしまいました。残された家族にとって、こんなに悲しいことはないのに、周囲の無理解や心無い対応による精神的被害等、二次的な被害にも苦しむことがあります。もし、身近な人が犯罪被害に遭ってしまったら…その人の気持ちに寄り添い、見守り、支えていくことが大切です。

新たな試練

あなたにとっての大切な人を思い浮かべてみてください。その人が、突然、理由も分からず姿を消してしまったとしたら…。おそらくあなたは、言葉では表現できないくらい不安や絶望感を抱くのではないのでしょうか。「北朝鮮当局による日本人拉致」によって、家族を引き離され、つらく苦しい毎日を送っている人がいます。今、改めて、拉致被害者と家族の悲しみを、深く受け止め、忘れずにいたいです。

Voice・LGBTの子供たちの声

「性別は男女しかない。」「異性に恋をする。」これは、あたり前のことなのでしょうか。身体や心、性的指向のあり様には一人ひとりに違いがあります。「男(女)だから」「普通は」と決めつけるのではなく、「違い」を「個性」ととらえ、互いを認め合い多様性を尊重できる社会。その実現は、様々なマイノリティの人はもとより、全ての人が安心して自分らしく生きることができると社会へつながるのではないのでしょうか。

あなたの思う福島はどんな福島ですか？

東日本大震災による甚大な被害や原子力発電所事故が、福島の人たちの生活を大きく変えてしまいました。さらに、心ない風評被害が人々の心を大きく傷つけています。噂や不確かな情報を理由に福島イメージを誇張する前に、福島を訪ね、おいしいものや、きれいな景色にふれ、住んでいる人たちと話をし、福島や福島の人たちのことを知ることからはじめてみませんか。

作品の掲載を御快諾くださいました作者並びに関係の皆様へ厚くお礼申し上げます。

掲載されている全ての作品は著作権法によって保護されていますので、他への転載等は著作権者の許可が必要です。